

平成 27 年度 第 6 回「防災スペシャリスト養成」企画検討会

議事概要

1. 検討会の概要

日 時：平成 28 年 2 月 17 日（水）10:00～12:00

場 所：中央合同庁舎 8 号館 5 階共用会議室 A

出席者：林座長、鍵屋委員、黒田委員、重川委員、丸谷委員、渡邊委員、田村教授
加藤政策統括官、進藤参事官、山田参事官補佐

2. 議事概要

各委員による意見交換を行った。主な意見等は次のとおり。

- 資料 2-1「研修内容の体系表(案)」は、行政職員に教える防災活動の内容の「標準化」されたものであるといえる。この研修内容の体系を確立し、最終的には「研修指導要領」を整えていくとよい。
- この体系表を元に「研修指導要領」を整備していく方針であれば、「体系表」のように全体の整理から入るよりも、1つ1つの講義で教えるべき内容を整理していくという議論の進め方がよいのではないか。
- 4階層では、研修で教えるべき項目を立て、2 日間のコースのなかで、「これだけは教えてほしい」という要素を整理した「研修指導要領」をもとに、どのように教えるかについてはコーディネーターの裁量になると考えている。
- 現在の4階層は、研修で教えるべき重要度で考えると項目にムラがある。4階層の項目を区分する際の考え方を定めるべきではないか。
- 物資の管理やボランティア対策などについては、複数のコースで違った観点から教えることが必要になるため、4階層以下は再掲を許すことにした方がよいのではないか。
- 体系表は、教えるべき項目を漏れなく整理するために縦割になっているが、それだけでは不十分であることを踏まえた中で、第6階層までの中で重複する項目についても分かるように整理したい。
- 体系表の現在の項目名表記では、単元で取り上げるべき項目が漏れていることがある。重要な項目が抜け漏れないよう、整理すべき。
- 「構造化表」で整理された内容は、すべてを講義で扱う必要はないと思うが、「体系表」の項目との対応についてはさらに検討した方がよい。

- 資料 2-1 の 2 ページ目の第 2 階層「②災害予防」コースを見ると、「(17)災害抑止策」と「(18)被害軽減策」とあるが、両者の受講者層はかなり異なるため、別のコースに分けるなど検討が必要ではないか。また、「備え」を柱としてはどうか。
- e ラーニングでは、4～5階層を含めて、標準テキストの内容を網羅的に学べるようにしたいと考えている。
- 「(21)応急活動」の4階層は、住民の生命に関する緊急対応と、災害救助法に係る応急活動の内容の2つで整理してはどうか。
- 「(21)応急活動」の内容は、道路啓開、ライフライン復旧、物資管理、遺体処理など、被災者対応の基盤となり、外部からの支援を仰ぎながら進めるという全体像を把握できるものとするのがよいのではないか。
- 「(21)応急活動」は、応急対策から「No.22 被災者支援」の内容を除いたものを扱うと考えるなら、「応急活動」という名称は必ずしもふさわしくなく、変更すべきではないか。
- 「(21)応急活動」から「(23)復旧復興」については、「実施(災害対応)」と「準備(予防対策)」の両方が含まれているという考え方で、「災害予防対策」との内容の違いが明確になるようにした方が教えやすいのではないか。
- 第 4 階層の「(K-5)受援計画の策定」は、第 3 階層の「(21)応急活動」や「(22)被災者支援」の単元でも取り上げられる可能性があるため、どこに位置づけるかはコーディネーター同士の調整が必要になるのではないか。
- 「(16)災害予防対策の検討」の第 4 階層にある「(I-1)被害想定」は、「No.8 地域の脆弱性」に含めて教えではどうか。
- 「(11)情報企画」においても、「備え」が必要であることを強調するため、体系表の項目名を見ても分かるよう、備えの重要性を強調すると良い。
- 災害を起こさないための「災害予防対策」と、起きた時のための「災対対応策」の2種類あることを、「(14)防災対策」の中で説明してはどうか。
- 体系表の「(13)人材育成」の「訓練」の対象は、行政職員に絞り、一般住民の普及啓発のための訓練は「No.14 防災対策」に含むのが妥当である。
- 「構造化表」には「要配慮者」についての項目が含まれているが、資料 2-1 体系表や資料 3-1 のスライドでは「要配慮者」に係る内容があまり取り上げられていないので、もっと取り上げるべき。
- 「(18)被害軽減策」の第 4 階層には、『要配慮者』の項目があるべき。
- スライド「(N-7)被災者支援の個別課題」の実際の単元では『要配慮者』に関する話題は取り扱っている。体系表の中には項目として出てこないのに、新たに設けるとよい。

- 今後は 4 階層目の内容充実が重要である。同じ項目を別のコース、単元で重複して取り上げることは容認し、また単元の名称が教える内容を適切に表すよう配慮しながら、体系を充実させつつ 10 コースの整備を進めるのがよい。
- 防災スペシャリストの研修は、まずは全体をわかる人を養成するのが目的であるとする、個別のテーマについては専門研修、特別研修など別枠で教えるという方法もある。